



地すべりと共に暮らす

しめかけ
鶴岡市七五三掛

自分の住んでいる地域を知ろう

近年、地震や豪雨などの異常気象により災害が多く発生している。記憶に新しいのは、令和2年7月27日から29日にかけての豪雨による災害で、山形県内では、約4百億円の被害が生じた大規模な自然災害となった。

防災に対する意識を高め、備える事はこれからの生活では欠かせないものとなってきている。

今一度、住んでいる地域にどんな危険があるか確認しよう！

地すべり防止区域の特徴

地すべり区域は、なだらかな傾斜地が形成され、肥沃かつ地下水が豊富であることから、稲作を中心とした農業経営が展開される農村地帯になることが多い。その光景は「棚田」として良好な景観を作りだしている。

山形県内41箇所ある地すべり防止区域の一つ、鶴岡市七五三掛地区も、映画の撮影舞台になるなど、その景観は高い評価を得ているが、明治初期から何度となく地すべりが発生している。平成21年2月には雪解け水の影響で再び大規模な地すべりが発生し、以降、農林水産省東北農政局で対策工事を行ってきた。

平成30年には対策工事が完了し、地域の安全が確保され、現在は山形県で地すべり防止施設の維持管理を行っている。



地すべりに対する警戒

安全第一で点検しています。

地すべり巡視員

地すべり防止区域内の変状を見逃さないため、県ではその区域の特徴を熟知している方へ、農地地すべり防止区域の巡視を委嘱している。月に一度の日常点検に加え、大雨時の緊急施設点検など、地域の安全のために活動している。

七五三掛地区では、地区内で営農している清野さん、今野さんの2名が、日常の農作業を通じた土地の変化に留意しながら、巡視活動を行っている。



写真 右：清野 正喜さん（68歳）
左：今野 正徳さん（71歳）

県の役割

県では、地すべり防止施設（集水井、横ボーリング、排水トンネル）の点検や区域内の地下水位を定期的に観測することで、施設が適正に機能しているかを確認している。



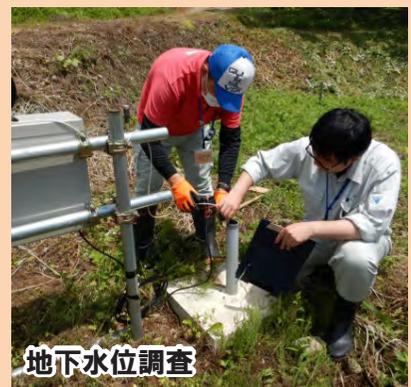
排水トンネル流量調査

区域の確認

地すべり防止区域には、看板が設置されており、地すべりが発生しやすいことを示している。区域付近に住んでいる方々は、避難経路の確認を行い、地すべりに備えることが大切。



集水井の水位調査



地下水位調査



集水井の内部

外部

集水井とは

地すべり区域の地下水が集中しているところに設置して、地下水を集め自然排水させる井戸のこと。

七五三掛地区では、約 40 基設置されている。

地すべりの前兆現象

- ① 地面がひび割れたり陥没したりする。
 - ② がけや斜面から水が噴き出す。
 - ③ 井戸や湧水が減る。
 - ④ 山鳴りなどの音がする。
- これらの、現象が発生した場合は地すべりが起こる可能性がある。